

香川県におけるスモン患者の現状と骨折に関するアンケート調査

鎌田 正紀 (香川大学医学部神経難病講座)

紀乃 正志 (香川大学医学部神経難病講座)

研究要旨

香川県における令和4年度のスモン患者の現状を把握するための検診および骨折についてのアンケート調査を行った。香川県のスモン患者は合計11名であり、昨年度より2名減少した。検診に参加したのは3名で男性1名、女性2名、平均年齢は87.7歳であった。検診不参加でアンケートの返信があったのは5名であった。4名は自宅療養中で、1名の死亡が確認された。アンケートの返信がなかったのは3名であり、昨年と同様者であった。骨折に関するアンケート調査では7名の回答があった。骨折の既往があったのは4名で、1名はスモンと無関係と考えられた。残り3名について、1名は2回骨折していた。骨折部位は腰椎が2名、上腕骨が1名であった。転倒によるものがほとんどであるが、無自覚な骨折もあった。全例保存的な治療が行われ、骨粗鬆症の既往及び治療歴があった。骨折はADLの低下を来し早期予防が重要と考えられた。

A. 研究目的

香川県における令和4年度のスモン患者の現状を把握する。またこれらの患者において骨折に関するアンケート調査を行う。

B. 研究方法

香川県在住のスモン患者について、令和4年度検診希望者に対してスモン現状調査票に基づいて現在の身体状況、療養状況について調査を行った。検診不参加者に対してはアンケート調査を行い、可能な限り状況を把握した。また、これらの患者に対して骨折についてアンケート調査を行い、骨折の有無及び治療状況、骨粗鬆症の既往及び治療歴等について調査を行った。

C. 研究結果

香川県のスモン患者は合計11名であり、昨年度より2名減少した。検診に参加したのは3名で男性1名、女性2名、平均年齢は87.7歳であった。そのうち、2名が大学病院に定期通院し、1名は近医に定期通院中であった。1名は自宅で妻と同居しており、症状は感

覚症状(異常感覚)が主体でADLは自立していた。1名は自宅で長女と同居しており、6日/週デイサービスを利用していた。1名は夫婦で施設に入所中であった。全員が特定疾患を申請しており、障害者手帳を取得していた。介護保険は2名利用していた。(図1)

検診不参加でアンケートの返信があったのは5名であった。4名は自宅療養中で、1名の死亡が確認された。検診不参加の理由は、家庭の事情が2名で、残りの2名は退院直後のため、他院通院中であるためであった。(図2)

アンケートの返信がなかったのは3名であり、昨年と同様者であった。(図3)

骨折に関するアンケート調査では7名の回答があった。(図4)骨折の既往があったのは4名で、1名は若い頃の転倒によるもので、スモン、加齢とは無関係と考えられた。残りの3名について、1名は2回骨折していた。骨折部位は腰椎が2名、上腕骨が1名であった。転倒によるものがほとんどであるが、無自覚な骨折もあった。全例保存的な治療が行われ、骨粗鬆症の既往及び治療歴があった。(図5)

年齢・性別	生活場所・同居人	Barthel Index	身体障害者手帳	特定疾患	介護保険
83歳・男性	自宅・妻	95	5級	申請済み	なし
91歳・女性	自宅・娘	60	5級	申請済み	要介護3
87歳・女性	施設・夫	70	1級	申請済み	要介護3

図 1

年齢・性別	生活場所	日常生活自立度	身体障害者手帳	特定疾患	介護保険	理由
86歳・男性	自宅・妻	95	2級	申請済み	要支援3	家庭の事情
82歳・男性	自宅・妻/娘	車いす	3級	申請済み	要介護1	家庭の所要のため
90歳・女性						死亡のため
90歳・女性	自宅・独居	車いす	なし	申請済み	要介護2	近医で診てもらっているため
93歳・女性	自宅・娘	自立	5級	申請済み	要介護3	高齢及び退院直後のため

図 2

年齢・性別	
87歳・女性	昨年も同様返信なし
92歳・女性	昨年も同様返信なし
99歳・女性	昨年も同様返信なし

図 3

D. 考察

高齢化に伴い、検診を受ける人は年々減少している。一般的に 50 歳の女性は、生涯で椎体圧迫骨折を起こす可能性が高く、大腿骨骨折の 10 倍以上といわれている。骨折の原因は、非椎体骨折の大部分は転倒によることが多いが椎体骨折は必ずしも転倒は関与していない。高齢の患者では、近位上腕骨および大腿骨骨折が多く、椎体骨折の発生率は、骨粗鬆症と関連がある。転倒予防には、運動療法、ビタミン D 投与、家庭での環境調整などが有効といわれ高齢者に対する効果的な骨折予防アプローチはまだ十分に確立されていない。

E. 結論

高齢化に伴い、検診を受ける人は年々減少しているが、スモンのことを風化させないため、またその強い要望もあるため継続する必要がある。骨折はさらに ADL を低下させる要因となるため、その予防に早期から取り組むことが重要である。

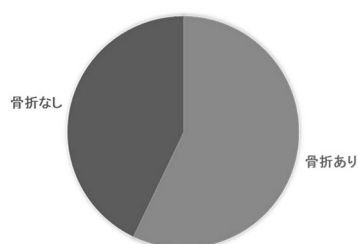


図 4 骨折の有無

	回数	部位	原因/場所	治療
83歳・男性	1回	上腕骨	転倒/屋外	手術
86歳・男性	1回	腰椎	転倒/寝室	入院・保存的
90歳・女性	2回	上腕骨	転倒/リビング・屋外	入院・保存的
91歳・女性	1回	腰椎	不明	入院・保存的

図 5

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

なし